

たんぽぽ通信

6月1日発行 184号
ケアハウス王喜の郷 令和4年6月号

Webページ <http://www.ryokujyukai.jp>

ケアハウス2階の風呂の改装が5月末1週間で終わりました。ご協力ありがとうございました。またエレベーターの夜間工事も前後して行いました。エレベーターは6月にあと1回工事を予定しています。25年が経過すると建物もあちらこちらほころびがでます。生活に支障がないように少しづつ手を入れています。皆様の居室でも気が付かれたところは職員にお申し出ください。話しは変わりますが、先日5月厨房が「ふるさとランチ」を企画しました。「ふるさと」は何かと悩みましたが、とにかく入居者の皆様にアンケートを取ろうとお話を伺いました。卵焼き、チシャなます、八宝菜などが候補に挙がりました。献立もさりながら、基本の野菜が高く(ジャガイモ、玉ねぎ)、これは地球温暖化によるか、ロシアウクライナ戦争によるか、中国のコロナ禍か、と身近な様々な物品の調達が大変難しくなっています。が、6月は飲茶(ヤムチャ)ランチです。お楽しみに。 施設長 末谷千秋

6月のお誕生日&行事予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6 芒種	7	8 レトロコンサート	9	10 時の記念日	11
12	13	14	15	16	17	18
19 父の日	20 ビューティーヘルパー	21 夏至	22 レトロコンサート	23	24	25
26	27	28	29	30		

*誕生日: お名前記載の方の誕生日です。ささやかなカードとお菓子をプレゼントさせて頂いております。
***ビューティーヘルパー: 出張の理美容です。食堂白板に申込みを貼っています。ご記名ください。
****イズミ行き: 午後1時出発、2時半頃帰着。長府ゆめタウンへの買い物バスです。(月に5回)⇒しばらくお休み。
*****レトロコンサート: 午後1時半～3時 昔懐かしいレコードやビデオを観たり、歌ったりお茶もあります。
☆第1水曜日はケアハウス食堂・第4水曜日は隣のグループホーム。同じ内容です。参加費300円
****ななの会(習字)はお休みさせていただきます。

昭和レトロコンサート

時代を彩った戦前・戦後のヒット曲の数々をお楽しみ下さい
作曲家 上原げんと & 船村徹の夢の競演

日時 六月八日(ケアハウス王喜の郷・食堂) 十三時三〇分～十五時
「東京の花売娘」「東京のバスガール」「別れの一本杉」ほか

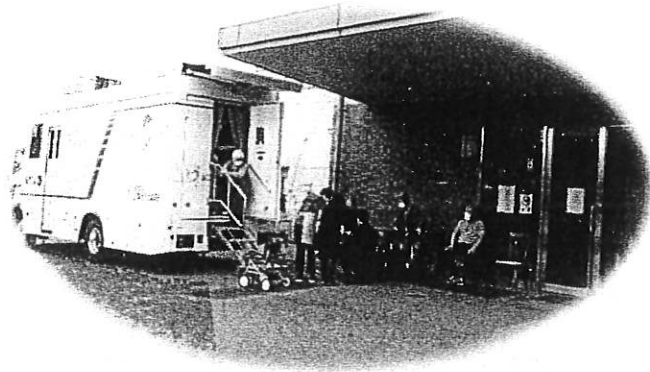
六月二十二日(シニアハウス王喜の郷・食堂) 十三時三〇分～十五時

♪懐かしいあの日、あの時の思い出が鮮やかによみがえるコンサートをお楽しみください♪
【会費】 三〇〇円(お茶代・資料代) ※今月は第二・第四水曜日に開催します
【お問い合わせ】山根(ミント) 中村(ケアハウス)



ケアハウス入居者胸部エックス線検査

5月20日(金)、山口県予防保健協会の検診車で胸部エックス線検査を行いました。



ケアハウス2階浴室改修工事終了

5月16日から1週間、ケアハウス2階浴室の改修工事を行いました。

ご不便をおかけいたしました。工事も無事終了いたしました。皆様のご協力ありがとうございました！

誕生者ドレスアップ写真撮影

先月から、誕生月の方へのプレゼントとしてドレスアップ、メイクアップをしての写真撮影を行っています。5月には2名の方が参加されました。誕生月には声をおかけしますので、ぜひお楽しみに！

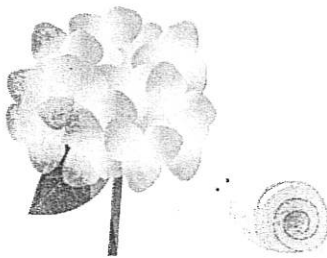


「男の友情」名曲秘話

戦前、戦後を通じ数々のヒット曲を発表したスター岡晴夫と名コンビと言われたのが作曲家、上原げんとでした。2人の出会いは、昭和9年で岡晴夫が18歳、上原げんとが19歳でした。東京の下町を流して歩く演歌師のコンビを組んだのが2人の縁のスタートでした。下宿の6畳の部屋で共同生活をし、夜は流しを屋はそれぞれ歌と作曲の勉強に余念がありませんでした。そして昭和13年に2人揃って、キングレコードのオーディションに合格し、歌手と作曲家として翌昭和14年「国境の春」で流しのコンビがそのまま、新人作曲家・歌手としてデビューしました。その後、2人は「港シャンソン」(昭和14年)、「上海の花売娘」(昭和14年)、「東京の花売娘」(昭和21年)など数々のヒット曲を発表しました。

戦後、少しの間ですが2人は別々のレコード会社の専属となりました。そんな時期、岡晴夫は寝る時間のないハードな地方公演のスケジュールを戦後はずっとこなしており、その過労から声が出なくなりました。短期間、歌手を休業し湯治場で療養、声の回復に努めました。それを聞いた、上原げんとは他社の専属作曲家でありながら、忙しいスケジュールを調整してギターを抱え、湯治場の岡晴夫を訪ね、ボイストレーニングを行いました。2人の友情は会社の垣根を越え健在でした。そして昭和30年、岡晴夫がマーキュリーレコードから、上原げんとが専属のコロムビアレコードへ移籍し、3年ぶりにコンビが復活しました。その2人の境遇を作詞家石本美由紀が作詞し、上原が作曲、岡が歌いヒットしたのが「逢いたかったぜ」(昭和30年)です。歌い出だしの♪逢いたかったぜ 3年ぶり～♪は、まさに2人の事なのです。

しかし2人の出会いから21年後、上原げんとが避暑地に向かう車の運転中に心筋梗塞で急逝しました。告別式では目の手術をしたばかりの岡晴夫がサングラス姿で「逢いたかったぜ」を歌い、サングラスの下からは涙が溢れ、その歌う姿を見た多くの人達がまた涙しました。 ミントの家 山根 徹

ケアハウス王喜の郷 ケアハウス一階の吹き抜けに毎年ツバメがくるのをご存知でしょうか？ふと見るとツバメの赤ちゃんが2羽、巣から顔を出しています。親ツバメが餌を運んでくるのを見つけると口をパクパク。 最近、NHKの子ども向け番組で流れる「ツバメ」という曲を耳にしました。「ともに生きる」というテーマで作られたこの曲の詩の中に「僕らに今できることそれだけで全てが変わらなくたって 誰かの一日にほら少しだけ鮮やかな彩りを」という部分があります。無垢で元気なツバメの赤ちゃんたちも、その存在だけで私の一日を明るくしてくれました。私自身も誰かの一日に彩りを添えたいと思った出来事です。  生活相談員 ブース千尋	ケアハウス王喜の郷(厨房) もうすぐ梅雨に入りますね。私は春が1番好きなので、今この季節を満喫しています。調理をするときも、冷暖房なしで仕事ができるので心地よく過ごすことができます。 梅雨に入ると厨房は湿気と蒸し暑さで何もしなくても汗が流れます。なので梅雨に入る前に体力をつけ、今後も調理に励みたいと思います。皆さんも水分、塩分補給をし、体調を崩さないよう気を付けましょう。  厨房職員 水嶋麻里	王喜の郷デイサービスセンター 山の緑も徐々に濃くなり、初夏を感じられる季節となりました。まだまだ、朝晩の寒暖差があり衣類の調整が難しいですが、体調を崩さないようにしていきたいですね。 先日、頭の体操時に旗あげのゲームを行いました。赤と白の旗を持ち、号令に合わせて上げたり下げたり利用者の皆さまは職員の難しい号令にも引っかかることなく、正確に旗を振っていらっしゃいました。笑い声もたくさん聞こえ、楽しい時間となりました。これからも、利用者の皆さまのリフレッシュの場となるように努めてまいります。  介護職員 岡 幸恵	グループホーム王喜の郷 5月17日(火)にご近所の神田様宅へバラの花見学に行ってきました。 当日はとてもお天気が良く穏やかな日で庭一面に咲いた色とりどりのバラの花を見て「綺麗じゃねえ！！」と大変喜ばれていました。久しぶりの外出で皆さんとても良い気分転換が出来たようです。 コロナウィルスの感染がまだまだ落ち着きませんが、感染対策をしっかりと行い、6月には東行庵へ菖蒲見学に行く予定にしています。 皆さんに季節感を味わって頂くとともに気分転換ができるような外出を色々と考えていきたいと思います。  介護職員 奥田しのぶ
王喜の郷居宅介護支援センター 下関市東部地域包括支援センター主催の地域ケア会議に、私が担当している方の事例を提供し、話し合いを行って頂きました。 ご本人と自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター、生活サポートセンター、介護保険サービス事業所の方が参加して下さいました。 生活をする中での困りごとの相談と地域で安心して生活が送れるよう沢山のアドバイスを頂きました。地域の方と情報を共有し、これから定期的な訪問や地域との関わりが持てるよう支援してて行くことになりました。 ご本人と私だけでは解決できなかったことを多くの方のご意見により改善に向けた良い話し合いでした。地域の方の支援が大切であることが分かりました。参加できて良かったです。 介護支援専門員 田邊美江	王喜の郷ホームヘルパーステーションいるか ヘルパーが訪問している90代の利用者の方で、ご自分の歯が9本残っているとよくお話しされます。食後は丁寧に歯磨きをされているとのことでした。 オーラルフレイル【嚥んだり、飲み込んだり、話したりする為の口腔機能が衰えること】にならないようにも気をつけておられるそうです。 口腔機能が衰えないように、適切に対応することで予防や回復が可能です。 歯や口の機能維持を図り、ご自宅でいつまでも健康的な生活を続けていきましょう。  訪問介護員 山本美弥子	王喜の郷ミントの家 シニアハウス王喜の郷 *利用者Aさんの運動量アップ* ・午後はいつも横になっていました。職員も休まれているからと声かけを遠慮していました。 ・午前にも散歩に出るようにし、Aさんにも声をかけるようになりました。 ・最初は車椅子で外気浴をするようになり、少しすると距離は短いですが建物周囲を歩かれるようになりました。今ではシルバーカーで散歩に出られて距離も伸びています。 他の方でも建物内の歩行だけだったのが外を歩かれるようになり、自転車こぎもされています。 声かけに工夫し、繰り返し関わる事で参加する事が増えていきました。 管理者 堺悦子	放課後等デイサービス さくら さくら農園で育てたそら豆の収穫を行いました。 さやを持ち手際よく収穫できる子、虫が気になり恐る恐る手を伸ばす子等、様々な様子が見られました。 そら豆の皮を剥くと、中は白くふわふわな綿のようになっている上に豆が乗っており、それを見た子が絵本「そらまめくんのベッド」を思い出し、「そらまめくんのベッド、ふわふわで気持ちいい〜！」と言ってお友だちと一緒にさやの中を手で触れ感触を楽しんでいました。 そら豆の収穫後には、とうもろこしの種まきを行いました。水やりをしたり草取りをしながら、子どもたちと芽が出てきたこと、少しずつ成長していること等、様子を観察しています。 今から、とうもろこしを収穫できる日が楽しみです。 さくら支援員 松下 美由紀